



写真提供/あけびの園

近年新たな注目を集めるシラカバ

シラカバ (和名: シラカバ, 学名: Betula platyphylla var japonica)

長野県の県木であるシラカバは、県内の標高1,000m以上の高原で、ごくふつうに分布しています。全国的には本州中部以北にしか天然分布しておらず、東京などの温暖地域へ植えた場合は、カミキリムシ等の被害が多発することが知られています。

シラカバは明るいところを好んで生育する陽樹で、山火事跡地や耕作放棄地などによく見られます。種子は一粒0.2mgと非常に軽く、大きな翼があり風に乗って100m以上遠くまで運ばれ、親木から離れた場所でも発芽することが出来ます。シラカバは初期成長が早く10年で10mになることがあり、時にはきれいな純林をつくるので、特有の美しい景観として、八千穂村や開田村などでは重要な観光資源として位置づけられています。ただし、シラカバの寿命は短く、一般的には50年程度と考えられています。

シラカバの特徴はなんと言っても幹の白い色ですが、若い頃の幹は白くありません。10年ほど経過したシラカバ林でも、幹がきれいに白くなった個体は3分の1程度でした。

シラカバの幹が白くなるのは、外樹皮に含まれるベチュリンという白色の化合物が多く含まれているためであることが明らかになってきました。最近の研究では、このベチュリンの類縁化合物であるベチュリン酸に強い抗エイズ活性が認められました。

シラカバは、観光資源としての注目度が高い一方で、工芸品やお盆の迎え火程度にしに利用されています。しかし、近年キシリトールの原料として有名になるほか、樹液飲料としての商品化や、外樹皮のベチュリンなど幅広い分野での利用価値に期待が集まっております。新たな資源として注目されつつあります。

協会発足25周年にあたって

長野県環境測定分析協会
会長 梅垣良男

昭和53年5月県内環境測定業者18社が互の結束と環境計量の技術向上等を目的とし、初代会長に小澤敏秀氏が就任されて発足しました。現在会員数は33社に及び、この間幾多の変遷を経てここに創立25周年の記念すべき年を迎えることが出来ました。改めて関係各位、歴代役員及び会員の皆様の温かいご理解とご協力に対し深甚なる敬意と感謝を申し上げご同慶に存する次第でございます。

平成8年度より協会内に総務部会、技術部会、広報部会を設置全会員がいずれかの部会に所属し活動していただくことになり、又平成9年4月より協会事務局を諸事情のため、計量検定所より副会長企業内に移すことになり私が当時の副会長(会長堀内茂男氏)であったため一年以上に亘り

対応に苦慮し、会員の皆様に迷惑をおかけした事が昨日のように想い出され懐かしい限りです。とくに官庁方式から民間方式への転換に苦勞しました。更に平成12年度より協会名を「長野県環境測定分析協会」に改稱し当協会の存在と活動を行政官庁、県内企業及び広く県民に衆知することを願った次第です。又会員社員の分析教育及び精度管理の研修受講先の(社)長野県公害防正管理協会に、加えて当協会のアピールを兼ねて(社)長野県環境保全協会にそれぞれ団体加入したのもこの年のことでした。

平成12年で忘れてはならないのは「ダイオキシンの特措法」により長野木材連合会(長木連)に所属する企業の焼却炉測定が県の指導で実施することになり協会会員15社が参加を申出て東北中南信地区に分割して実施しました。堀内会長、斉藤総務部会長の三人で長木連との協議すること11回に及び平成12年と13年当初にかけて「ダイオキシン」に明け暮れたと申し上げても過言ではない多忙の年でした。この事業

は単に4地区で測定したということも去ることながら、協会の名のもとに実施したこと、に大いに意義があったと信じています。平成14年10月8、9日に亘り、第14回日環協関東支部環境セミナーが当県担当で軽井沢プリンスホテルにて延150名の参加を得て協会会員のご協力のもと盛會裏に開催することが出来ました。想いおこせば、平成元年10月第1回環境セミナーが小諸市にて開催し、暗中模索で準備したことが懐かし、とくに亡き(株)信濃公害研究所の大島社長のご尽力で盛大に開催出来ましたことを併記させていたできます。セミナー開催に当り協会の若手リーダーの皆様企画、実行と連携が密接にマッチして成し得た事業だったと改めて感謝を申し上げます。更に、環境行政が厳しさを増し、計量法改正、土壌汚染対策法等矢継ぎ早に通達が出されておきその都度各部会の皆様のご協力のもとに協会の役割を果たし得たことに感謝を申し上げます。継続事業として、諏訪湖、天竜川水系、信濃川水系の2水系24時間水質一斉調査に多くの協会員の協力をいただき環境保全の一翼を担っているところです。兼

ねてからの念願であった「会員ガイドブック」が平成14年10月に、協会広報紙「ナチュラル」創刊号が平成15年6月にそれぞれ発行。創立25周年記念事業に花を添えていただき心から感謝申し上げます。平成16年2月に、2006年7月よりE.U等に輸出の製品、包装材料等に6種類の「有害化学物質」が使用禁止となるため、県商工部産業技術課の指導の基に「長野県材料分析研究会」を設立、所謂グリーン調達に係る材料分析に寄与するため14社の協会員参加、精度管理の徹底と分析技術向上を計って需要に備えることになりました。今後共、協会への期待が深まることを信じています。そのためにも精度管理の重要性と、分析技術向上には一層の努力をお願いすると共に、徒らに料金の値引合戦はお互反省すべき期ではないかと存じます。

終りに当り、歴代会長始め役員のご努力が実を結び協会として機能が発揮されつつあり、ここ数年に亘って若手経営者の皆さんの情熱を肌と感じ実在に頼りを感じており協会の益々の充実と発展のため一層のご支援をお願いしてご挨拶いたします。

信頼性考

「近年、企業の社会的責任(CSR)に関する関心が非常に高まってきています。環境問題に対する国民の関心も急速に高まってきており、環境分野における計量証明への期待と、その結果が与える社会的影響の大きさに鑑みれば、各事業者が、自らの社会的責任と役割を自覚し、より高次の自己管理が求められると書えましょう。本年年初(社)日本環境測定分析協会誌「環境と測定技術」に寄せられた経産省知的基盤課長徳増有治様の書である。

「計量証明事業の社会的責任とは何であろうか、信頼するに値する測定分析の提供にあることに議論の余地はない。

分析結果は行政配産に利用され時として罰則を伴うこともあるからである。

只、我々の製品は一般の消費材のように有形ではない。手にとってみて製品の良し悪しは判断できない。時として「ごまかし」も生じかねない。事実先年の計量法改正国会審議の際、某県において計量証明書の捏造の事実が発覚し、制度検討の質問事項とされた。当県内においてこのような悪徳事業者が存在するとは思われないが今回水道法の改正に際し公表された「水質検査における精度と信頼性保証」の中に同省の行った外部精度管理の結果、水道事業者、指定検査機関ともに約20%が「不満



長野県環境保全研究所
所長 青山 貞一

環境保全研究所の 今後の取組と協会への期待

21世紀は環境の時代と言われて久しい。官民を問わず、環境問題に適切に対応しない、できない組織は、21世紀を生き延びられないと言っても過言ではない。長野県には豊かな自然環境と景観、生態系がある。それらの環境を大切にすることなしに、将来はないだろう。環境を大切にすることが、イコール、長野県の特長的な産業育成策となると思う。

ところで昨年暮れ、田中知事から衛生公害研究所と自然保護研究所の2つの研究所を統合し、新たな研究所を設置するので、初代所長に就任して欲しいと打診された。固辞したが、永年環境の研究をしてきた者として「最後の「奉公」と思い、受けることとした。

長野県環境保全研究所に来て私が最初にしたことは、研究所のミッション、すなわち使命を明確にしたことである。ミッションは、環境分野で

社会正義を実現すること。国際的視野をもちながら、同時に第三者の立場の研究者として環境問題の現場に積極的に関わることにある。

さらに、研究員全員に自分が行っている研究の概要を10分にまとめ発表してもらっている。一度に全員は無理なので、毎回約10名に発表してもらい、それぞれに私が意見を述べている。それを通じて分かったことは、研究所は環境研究、とりわけ測定や分析に關し、かなり高い技術力を持っていると言ったことである。

だが、今後をよく見ると、測定や分析の分野にも国際化の波が押し寄せており、今までのように日本のなかの井の中の蛙ではだめだと思ふ。

OECDが化学質分析に關連し、日本に常々勧告しているように、国際的な規格や認証への対応も重要なものとなるだろう。ダイオキシン類分析におけるISO/IEC 17025はその一例である。

「環境保全研究所」と「環境分析測定協会」は、今後、国際的視野をもちながら同時に長野県において環境、健康、安全を支えるひとつの重要拠点であり続けたいと考える。



(社)日本環境測定分析協会
会長 田畑 日出男

設立25周年をお祝いして

長野県環境測定分析協会が設立25周年を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

貴協会が発足された時期は、経済的には第二次オイルショックの中にありましたが、一方で日中平和友好条約が調印され、国際的には明るいニュースのあった年でした。

また、この年は水質汚濁防止法の一部改正により総量規制が導入され、大気汚染に係る環境基準の一部改正によりNO_xに係る環境基準が改正された年でもありました。

貴協会は発足から今日までの長い間に亘って、環境計量証明事業者の統一精度管理試験への参加等分析技術の向上と精度管理に努め、時代の変化と共に常に信頼性の確保等に尽力されたものと伺っております。

これまでの地道な活動によって今日までご発展を遂げられたことに重ねてお祝い申し上げます。

上げます。

社団法人日本環境測定分析協会は、昭和49年4月1日に通商産業省と環境庁共管の社団法人として243の正会員で発足し、今日269正会員法人を数え30年になりました。

この間、環境測定分析業界の資質の向上と測定分析の品質向上という使命を果たしつつ環境保全にお役に立ちましたのも、貴協会をはじめ関係各位のご支援の賜物と感謝しお礼を申し上げます。

私達業界を取り巻く状況は、新たな社会的ニーズに对应、極微量化学物質の分析技術の確立、認証・認定や資格・登録要件等の取得による精度管理と品質向上への対応、さらにはコンプライアンスや高い倫理観など企業の社会的責任が問われています。

これらの多くの課題を皆様と一緒に克服し、業界の方向性を間違えずに発展してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、貴協会のますますのご繁栄をお祈り申し上げます。ご挨拶をさせていただきます。

足)又は「買収あり」とされる2値の絶対値が2を超えている現状にあるとされている。二つの事例はともに「事業の急ぎごときを測っている。」さて「高度な自己管理」であるが、計量証明においては制度的に「ダイオキシン」分析を除いては法で明確には示されていない。しかし分析結果の信頼性を確保するためには要員の教育訓練機器の整備管理、分析環境の整備、バラツキ懸正の内部精度管理、片寄り確認の外部精度管理への積極的参加がある。(外部精度管理への参加がない等は例外である。)

これらの取組は資本の投入、業務量、経費の増加を伴う。法の強制事項である検定、標準物質の使用を除いてはその程度は任意である。即ち自己管理の部類に入る。制度上自己管理で良いかは別として自己責任から良心的事業者は自己防衛上からも真摯に取り組んでいる。只、委託者である官が信頼性確保の取組み評価が見えない。一工夫あつて然るべきと考える。現場では只価格あるのみ現状に不安の声も聞く。供給側と共に虚心を檢討することもあつてよい。

環境の時代と云われて久しい。しかし環境計量証明業界にあっては昨年以内でも一件倒産が発生した。喧伝されるような安価で陽光の当る世界ではない。環境分析に關連する分野は広がりがあるか見えるが顧客からの信頼を得るため結果の信頼性確保が必須であることを自覚することが自衛につながり、投資を疑われる価格は結果疑念も誘発しかねないことも自覚すべきであろう。

あの頃の
出の想

協会設立25周年を迎えるにあたり、古くから環境計量証明に関連したお仕事に貢献されているお二人の方に発足当時の頃のお話をお寄せ頂きました。

こうした方々の弛まざる努力や研究の積み重ねが今日の協会の発展の礎となっていることを、わたしたちはもう一度肝に命じ、さらなる一歩を踏み出してまいりたいと思います。



〈元計量検定所長〉
伊野 栄一氏

環境計量教育を受けたころ

長野県を退職してから、こゝとでもう17年になる。いくつかの苦しい思い出があるが、環境計量教育を受けた2か月の経験もその一つであろう。

土木工学を専攻した私だったが、肺結核を病んで県の土木部を辞めたのが1960年の夏のことだった。商工部に配属され、以後計量検定所と地方事務所で商工行政を担当した。

計量検定所では、メーカーが製造する計量器の検定や社会に供給された計量器の精度チェックなどが主要業務だったが、取引、証明に使用する計量証明事業の事業登録やそれに使用する大型ばかりの検査も重要業務の一つであった。

ところが時代の要請を受け、その計量証明事業に環境計量加わることになり、事業登録も検定所が行うことになった。そしてその業務に携わる職員は、原則として当時の通産省の行う環境計量教育を受けなくてはならなくなったの

である。

私がこの教育を受けるのを志したのは1978年4月、南安曇地方事務所から再び検定所に異動になったときで、翌79年1月から2か月間東京東村山市の計量教育所へ向うことになった。このとき、私はすでに50歳。その期に入所した30人の最年長で、入所後総班長を言いつかつた。

それまで私はガスタロという言葉さえ知らなかった。仕事で扱う単位はすべて物理量。それがここでは講師の口からもれてくる単位は質量とか分子量とかいう化学量で、大いに面食らう。勉強は嫌いの方ではなかったが、理解できないところは恥も外聞もなく企業などから来ていた若い教育生に聞き、すべての試験をパスして卒業に漕ぎつけることができた。いま考えると頭脳をフル回転させた2か月だった。長い人生でこんな体験もいいのではないかと思う。



協会発足の頃



〈元計量検定所長〉
高嶋 敏氏

貴協会が創立25周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

昭和48年に社団法人長野県薬剤師会に入社し、分析業務に携わった翌年、「環境計量証明」という概念が本来の環境行政分野の管轄でなく、通産省(当時)の管轄する計量法の中に取り入れられました。県段階での所管は計量検定所で、今では何の抵抗もなく受け止めている。「分析業務」と「計量」という概念が一致せず戸惑いを感じたことを思い出します。

当時は、経済成長の急速な進展期で、「公害」が社会的に大きな問題となって環境測定、分析の需要が高まり、全国に測定、分析機関が多数設立されている頃でした。需要もありましたが、競争も激しく、全国的には、常識的には考えられないような時間で分析結果が報告される等問題も指摘されていました。そんな中で、分析業務を通

正に発展させる目的で、貴協会の前身である「長野県環境計量証明事業協会」が設立されたこと記憶しております。

分析業務に携わるものとして、分析データの信頼性が一番大切であることは誰もが理解していることであり、技術部会では、分析技術の向上、均等化を目指して、制度管理(クロスチェック)を計画しました。しかし、独自で実施する技量も組織もなく、試料の作成から結果の解析まで、行政関係者で構成する「環境科学技術者協議会」に協力いただく状態でありました。現在は、技術部会も充実して各種の事業をされており、頼もしい限りです。

当時の悩みは、クロスチェックへ参加しない機関等が価格競争に終始し、しばしばトラブルを引き起こすことがあり、クロスチェック結果を公表することはできないか、との議論が総務部会、技術部会等でもなされましたが、諸般の事情で公表にはいたらなかったことを思い出します。

思いつくままの駄文となつてしまいましたが、貴協会が益々発展されることを祈念して、筆を置きます。

平成15年度事業報告

分析機器技術研修会開催

技術部会

当協会の事業活動の一環として技術研修会を開催しているが、昨年より環境測定業界の生命線である測定の精度の向上を図るための研修会を開催している。

今年の研修会は執行委員のアンケート調査により希望の多かった分析機器メーカー五社に機器を指定して測定原理や機器の説明そして精度管理の考え方を含め講演をお願いした。

研修参加者は、総勢十九名で、執行委員は七名、その他の十二名は各測定機関の若手が占め、有意義な研修会を開催することができた。



し、会員の技術レベル向上を図って行きたいと思っている。

技術研修会に参加して

(株)科学技術開発センター

山口 哲哉

さてこの度開催されました技術研修会に参加させて頂きまして誠にありがとうございます。

内容は、今春より法律の改正の有りました水道法に伴う機器分析について、高津製作所より、ポストカラム誘導体化イオンクロマトグラフ、アジレントよりLCMS、日本ウオータースより前処理を中心とした有機化合物分析、またセントラル科学よりTOCと多様な講義で非常に参考となったと思います。

内容については、原理から測定の実際まで非常に解りやすかったと感じられましたし、中には、ちょっとした工夫までも含まれており、実際に現在実施しております他の機器分析にも応用可能であると感じられるものまでございました。



これからは、以前の経過を考えますと、水道法の改正から環境基準の改正、更に水質汚濁防止法へと新しい分析項目並びに機器分析法が順に加わって行くことが考えられ、いままでも、手分析で実施していた作業が機器分析になったり、吸光度法がクロマトグラフ法になったりという方向に進んでいくものと思われまます。当社でもこれに対応しなければと考えておりましたところでございます。

更に、昨年度の衛生公害研究所による精度管理でも、機器分析における分析機器の取り扱い及び管理はその測定データの精度に大きな影響を与えたとありました。

分析機器は、数字を出してくれませんがその信頼性を確保するためには、取扱い説明書には書かれていない部分が重要であるのは、機器分析の担

当者の方々は十二分にお解りであろうと思いますが、今回の研修会を含めた情報収集がその手助けとなるものと思えます。

いままでも、この種のメーカーによる講習会は東京で開かれるケースがほとんどであり新幹線により長野も東京が近

平成15年度事業報告

環境フェアに参加出展

広報部会

平成15年7月19日(土)〜20日(日)の二日間長野市若里のビッグハットで開催された、「信州環境フェア2003」に出展し、本協会及び会員の活動の取り組みをPRした。

「信州環境フェア2003」は、「めざそうみんなの循環型社会〜地球にやさしいってどんなこと?」をテーマに開催され、展示や各種イベントを通して、楽しみながら環境について考えられる機会だった。

長野県環境測定協会の展示は、①レジオネラ菌を、顕微鏡で実際に見てもらおう、②住宅建材や壁紙の接着剤として利用されているホルムアルデヒド、トルエン、パラジックロロベンゼンなどの臭いを体験してもらおう、体験展示がメ

くなくても、なかなか参加するには時間もかかったのですが、今回は松本で開かれとても助かりました。最後にりましたが、今回の研修会の開催にご努力されました皆様本当に感謝致します。

ありがとうございました。

インだったので多くの人が訪れ大好評であった。

今年も「信州環境フェア2004」が、7月17日〜18日に開催されます。本協会も又出展予定ですので、多くの会員の皆様のご来場をお待ちしています。



近年のニッポンの水事情

今回の水道法改正で目立つことは、消毒副生成物の検査項目が増えたことです。塩素等、水道水を滅菌するために必要なものですが、大都市圏など塩素臭が強く飲めないうるなどよく耳にします(長野県では聞かれないですが)。なぜ、そのように成ってしまったのか、しなければ成らないのかを私たち一人一人が考える必要があるのではないのでしょうか。このことが、原因なのかはわかりませんが、最近、スーパー、コンビニ等には沢山の種類の水が売られています。天然水・美味しい水・アルカリ水等々数えればきりがありません。私が、小さい頃は大人も子供も気にすることなく水道の水を飲んで

いたものですが、今では学校に水筒を持たせ、コンビニで水を買う時代になっています。話が少しずれますが、昨年アジアで猛威を奮った新型肺炎(SARS)が日本での感染が見られなかったのもヤクルト?のおかげではないのですが、他のアジアの国々には日本が衛生面で優れた国であることを言われています。しかし、行き過ぎた衛生もまた考えなければいけないのではないのでしょうか。一時期、水不足のおり、朝シャンによる水道水の消費が社会問題になったこともあったように記憶しています。私のように、ズボラな人間には朝から頭を洗うことなど考えられないのですが、すごいものだと思心した思いがあります。また、あるテレビ番組で、血液型に

格診断を行っていました。その中で、A型の人立食バ1タイプなどで使用した皿が少しでも汚れたり、また、違うメニューのものを取りるときには、すぐに新しい皿に取り替えたりすることを自慢げに話しているのを聞いたことがあります。皿を洗うにもシャンプーが使われ、皿一枚を洗うのにも、洗剤を使用し、少なからぬ水を使い、汚すことになる水のことを考えなければいけないのではないのでしょうか。O型、A型は忘れてしまいました。このようなことは、まだまだ、たくさんありますが必要ならば使わなければいけません。必要以上に限られた資源を使い汚すことは、いかがなものでしょうか。



替えたりすることを自慢げに話しているのを聞いたことがあります。皿を洗うにもシャンプーが使われ、皿一枚を洗うのにも、洗剤を使用し、少なからぬ水を使い、汚すことになる水のことを考えなければいけないのではないのでしょうか。O型、A型は忘れてしまいました。このようなことは、まだまだ、たくさんありますが必要ならば使わなければいけません。必要以上に限られた資源を使い汚すことは、いかがなものでしょうか。

水を大切に

していますか?



「日本人は、水と安全はタダだと思っている」と、ひと昔前まで欧現する言葉がありました。今でしょうか(水道水はタダでは色々あるようですが)。このことについて考えていきたいと思います。

「日本人は、水と安全はタダだと米人から言われていた日本を表現する言葉になっていては、なく、又、安全についても近頃はさておき、今回の特集は水に

水の汚染はわたしたちの責任!

このことは食にもつながる事ですが、ある人が都会から引越してきて、水道がないため井戸を掘り飲料に使ったところ、この水は美味しい、山も川もあり自然に囲まれた環境に満足していたのですが、ある日隣の畑でコンプレッサの音を轟かせ農薬を散布しているのを見て、今までのことが嘘のように不安になり井戸の水が飲めなくなってしまうとか、一面に広がっている綺麗な野菜畑の光景がそこか違和感を覚え、それが何故なのかを思い尋らし、畑が舞っていないのに気が付いた時...

当然、収穫を上げより良い商品を消費者に供給する上で、農薬を使用することはやむを得ない事です。しかし、必要以上に多量の農薬が使われ地



下水を汚染させ、昆虫も住めない畑で何故生産者の方々は商品を作るのでしょうか。生産者は消費者のニーズに合った製品、商品を作るものです。この野菜虫が食っているとか、入っているとか、まるで汚いものを見るようにクレームを付けている消費者も少なからずいるのではないのでしょうか。

日本は世界の中でも豊富な水資源を持っている国と私は思っていました。しかし、大都市圏など水不足が懸念されるのはどうしてでしょうか。人口の集中化もあるでしょうが、私たち一人一人が、豊かさ故にその大切さを忘れてしまっているのではないのでしょうか。水もまた、限りある資源である意識を変え浪費をなくし有効に利用したいものです。



水の大切さをもっと二度考えよう

それでは、汚してしまった大量の水はどうすればよいのでしょうか。自然は治癒力を持っています。森林や土壌等、水を浄化してくれるのですが、しかし、車社会の発展により排気ガス等で大気汚染が進み、木立が立ち枯れ、弱って害虫に犯され、それを駆除するために農薬が使われる始末です。

森林が破壊されると浄化してくれるはずの水を保持できず、逆に降雨時に濁水を生んでしまいます。また、最近では言われなくなりましたが、酸性雨は土壌を酸性化させ固定化されていたアルミニウムが溶け出して微生物に打撃を与えてしまいます。すると、天然のろ過機である土壌も水を浄化してくれなくなるのです。酸性雨を生み出すものは、火山活動等自然界からも排出されますが、日常生活で消費される石油等の化石燃料を燃やすことで生まれる硫酸化物、窒素酸化物が原因とされています。歩けない距離でもないのに、車を使っているのではないのでしょうか。利便性を追い求め、浪費することが豊かさか勘違いして、生命の源である水を汚すばかりでなく、水を浄化してくれ



りでなく、水を浄化してくれる仕組みまで壊している日常生活を少しでも変えていかなければ、いつか自然からしっべ返しがあるのではないのでしょうか。どこで聞いたかはよく覚えていないのですが、何かの環境展だったと思いますが、ゴミの減らし方の話がありました。その中で、ケチになること、という言葉が耳に残っています。儉約、節約等色々な言葉がありますが、ケチになることで無駄がなくなり、浪費も自然と少なくなりと思えます。そうすることで、自然と水は綺麗になり必要以上に消毒することもなくなり、美味しく安全な水が生まれると考えます。水はただの水、ケチになることでは。



環境計量に係わっての感想、希望

環境計量証明事業を行っている(株)信濃公害研究所に入社し、現在ひと月が過ぎようとしています。まだこの業種の詳細が完全に理解できていませんが、物を作って売るのはなく、証明書というデータが商品であるという点で、難しい面があるなというのが、一番の感想です。そして、私がこの環境計量に望んでいる事は、入社した動機でもあります。というのは、環境計量証明をするところによって、環境改善に少しでも貢献できるのではないかと考えた

わが社の
二コフエイス
第2回
藤原 雪彦さん
(株)信濃公害研究所



からです。さらに環境計量さらに環境計量によって私達は汚れた水・空気を生活している上で出しているんだというように地域の皆さんに思っていたければ、人々の環境についての認識が変わっていくと思います。また環境計量も、そのようなことに貢献して行ければすばらしいと思っています。

事業所訪問

第2回

長野市
株式会社みすず工業

当社は昭和四十三年に有限会社みすず商会として設立し、以来三十七年間一貫して、環境をテーマとした分野での事業展開を行い今日まで来ております。

事業の中核となるものは、産業廃棄物の中間処理ですが、その中においても工場廃液(廃酸・廃アルカリ)の中和、脱水処理が主軸となり、特別管理産業廃棄物にも対応しており、有害物を無害化する適正処理を実現しています。また、環境保全に取り組

む専門企業として、環境マネジメントシステムを導入し、平成十三年三月に「ISO14001」を全ての部門で認証取得し、全社員で環境保全活動を行っています。



産業廃棄物はその時代により内容も変化し、その形態はより複雑なものになってきています。また、近年の法律改正により環境に対する規制も厳しくなり、廃棄物の新たな適正処理方法の開発、及び廃棄物の多方面にわたるリサイクル技術の開発が必要とされています。そこで今年一月には、この様な課題に対応するため、分析業務を含む、処理・リサイクルに関する技術開発業務の組織を独立させ、新たなグループ企業として、「有限会社ESアドバイザー」を立ち上げました。

廃棄物として捨てる時代から再利用する時代へと社会が変化して行く中、「資源として再利用できる廃棄物」という見方に変える事が必要です。限りある地球資源を、環境に考慮した形での有効利用を進めるべく社員一同で努力しています。

長環協

ゴルフコンペ開催

総務部会

第2回

寒さ、ナイターなど忘れられない第1回コンペの話題で和気藹々と闘志が盛り上がり、今年は春と秋にぜひにとの声が高く新緑の中、梅垣会長さんのホームコースである塩嶺カントリークラブで下記の様開催され隠しホールが的中した勝野宗一さん(環境技術センター)が優勝致しました。

開催日/平成15年6月6日(金曜日)
会場/塩嶺カントリークラブ

時間/9時36分スタート
競技方法/18ホール

(しらかばコース、りんどうコース)、新ペリア

費用/コンペ会費3,000円
プレー・飲食費は各自負担



参加者の結果、3組11名のエントリーで協会長カップを手中に収めべく競を争いました。本コースが今年長野県アマチュア選手権の決勝コースとの事で、キャディさんも洗練されていきました。

第3回

秋晴れのすばらしい天気の中、初代優勝者である降旗敦海さんのホームコースである豊科カントリー倶楽部にて下記の様開催され前回三位、前回準優勝、と常に上位入賞している杉崎勝明さん(労・基・連合会)が優勝となりました。



参加者の結果、3組12名のエントリーで協会長カップを手中に収めべく競を争いました。本コースも今年のクラブチャンピオン大会が開催されるとの事でコース、キャディさんも洗練されていきました。

開催日/平成15年10月10日(金曜日)

会場/豊科カントリー倶楽部

時間/9時17分スタート
競技方法/18ホール

(T.N.コース、O.U.T.コース)、新ペリア

費用/コンペ会費3,000円
プレー・飲食費は各自負担

第2回上位三者成績結果

順位	氏名・所属	OUT	IN	計	HC	NET	備考
優勝	勝野宗一(環境技術センター)	56	47	103	26.4	76.6	
準優勝	杉崎勝明(労・基・連合会)	49	44	93	15.6	77.4	
三位	降旗敦海(公害防止管理協会)	44	47	91	13.2	77.8	BG

第3回上位三者成績結果

順位	氏名・所属	OUT	IN	計	HC	NET	備考
優勝	杉崎勝明(労・基・連合会)	50	46	96	25.2	70.8	
準優勝	降旗敦海(公害防止管理協会)	41	43	84	12.0	72.0	BG
三位	梅垣和彦(コ-エキ)	50	44	94	19.2	74.8	



コンペに優勝して

第2回優勝

(株)環境技術センター 勝野宗一

私のゴルフ歴は約30年近くになりますがここ十数年他の事に夢中で、年3~4ラウンド程度で熱が入っておらず、よって1打当りの費用は安くプレーして来ました。しかしここ12年 なんとか復活したい気持ちがわいて来ており、当会もコンペをやってほしいなどと騒ぎ回り年間10ラウンド目標に近づけましたが、気持ちは焦るがスコアが纏らずパーは取れてもラウンドしていると1、2ヶ所8、9個と大たたきするホールが出る、食事時ビールの飲み過ぎにより乱れるのが現在、私の実力です。

今回、隠しホールが大当たりカップを運が与えてくれました(ハッピー!!)。

これをきっかけに今度は実力での優勝をめざして頑張ります。



ゴルフって楽しいよね

第3回優勝

(社)長野県労働基準協会連合会 松本測定所 杉崎勝明

初めてゴルフコースへ出たのは二十年以上も前のこととなります。友達の一人が「今度ゴルフをやろうぜ」と言ってゴルフセットを購入してきました。「え、ゴルフって……」それまで何の好奇心もなくただボールをひっぱたく簡単なスポーツとしか考えていなかったゴルフが実際にひっぱたいてみるとなんとまっすぐに飛んでくれないことか、二十数年たった今でも右に左に、天手古舞。

そんな働き者の甲斐あって、何故かこの会のゴルフコンペでは毎回ベスト3以内という運の良さ、今回は優勝させていただきました。降旗さん、梅垣さん、そして若林さん楽しいラウンドをありがとうございました。

朝、若林さんが過去二回とも同伴者が優勝していると言った時、ついつい心の中で「俺の番か!」と思ってしまうした。



私の趣味自慢

環境測定センター 株式会社
（前・長野県八ヶ岳事務所）

矢澤 利一さん



「合唱の世界に足を踏み入れたら、入社して働かないで、一編に歌みに行こう」という言葉の一語でした。出かけた途中、「ちょっとお金がないから」といって行かなかった。何とか合唱の合唱団の練習場でした。その日以来です。三十数年経っています。もちろん「合唱」の持つ、歌の友人と感動する喜びと共にです。

うたをうたうとき
まどみちお

うたをうたうとき
わたしは
からだを
めざすて
からだを
めざすて
ここら
ひとつになります
ここら
ひとつになつて
かるがる
とんでゆくのです
うたよりもはやく
うたのゆきたいところへ
そして
あとから
たどりつく
うたを
やさしく
むかえてあげるのです

新研究会発足

「材料分析技術研究会」が発足しました。

●「設立趣旨書」抄より

製造業においては環境に優しい安全な商品作りが進んでおり、メーカーでは環境にやさしい材料・部品の調達が行われております。その際、材料・部品等に含まれる化学物質の分析、いわゆる「材料分析」が求められており、部品加工企業からの依頼分析が急増しているところと見られます。そしてそのチャンスを生かすには、

材料分析技術の確かな習得と関連する知識の獲得が必要と考えられます。そこで、分析事業者の連携により、材料分析技術の向上と関連する研究の場として「材料分析技術研究会」を設立するものです。
平成16年3月19日
●参加会員数 14会員
●支援機関
・長野県商工部産業技術課
・長野県精密工業試験場

「設立総会と第一回研究会に参加して」

株式会社ヤマコー 宇田川弘子

新しい社会のニーズに応える形で長野県環境分析協会において「材料分析研究会」が発足されたことは、県内の環境分析に取り組む企業や個人にとって未来へ向けた前進という感じがします。集まった方々は積極的に技術を習得しようということが感じられ、いい雰囲気です。設立総会が行なわれました。日頃の業務はとかく閉鎖的に成りがちですが、技術の向上という共通の目的を持ち、それに取り組むことはお互いに切磋琢磨される良い機会だと思えます。この研究会の設立に尽力された方々に感謝したいと思います。

総会のあと第一回研究会が実施されました。長野県精密工業試験所の方々の材料分析のデモンストレーションが行なわれました。分解操作など日頃見慣れた業務ですが、自社にない機器もあり、どこまでこの材料分析に係われるか気になりました。また、技術者同士の分析上の困難な問題

や解決方法、注意事項、定量下限の決め方、分析依頼者の要望など参考になることが多くありました。研究会を通じて、皆様と分析技術の向上に努めたいと思います。

新研究会ご紹介

株式会社環境科学

T 3999-00363
松本市大字徳岡7159-1
TEL 0263-85-3488
FAX 0263-85-3489

編集後記

本、第2号は当協会二十五周年記念特集号としてお届け致します。編集を通じて感じた事は会の発足当時より報告データの信頼性の確保と受託料金問題が現在まで続いており、近年更に深刻度をまして来ている事です。本会員は各自特色を有した事業所集団でありこの特色を活かし環境測定分析の分野で顧客の満足を得られる様、技術の向上と設備を持った事業所運営を全会員と共々改めて認識する時と感じました。ご多忙の中、原稿を頂戴しました皆様へ厚くお礼申し上げます。

発行 長野県環境測定分析協会
〒390-0100
長野県松本市大字徳岡一八二五の二
TEL 0263-85-3488
FAX 0263-85-3489
〒390-0100
長野県松本市大字徳岡一八二五の二
TEL 0263-85-3488
FAX 0263-85-3489

編集 佐藤 浩二
〒390-0100
長野県松本市大字徳岡一八二五の二
TEL 0263-85-3488
FAX 0263-85-3489

制作 環境科学
〒390-0100
長野県松本市大字徳岡一八二五の二
TEL 0263-85-3488
FAX 0263-85-3489

印刷 環境科学
〒390-0100
長野県松本市大字徳岡一八二五の二
TEL 0263-85-3488
FAX 0263-85-3489